

## 報告：原発問題をめぐる全体状況

@第92回脱原発八千代ネットワーク定例会

2020年8月22日 川井康郎

### 1. フクシマの状況

- (1) 7/31 東電は ALPS 汚染水の二次処理試験を9月に実施予定と。保管水の約75%がトリチウム以外の核種で基準値以上に汚染されているため。
- (2) 8/17 環境省は飯館村にて、覆土を行わず直接汚染土に食用野菜の栽培を行なう実証試験を開始。これまでは厚さ50センチの土で覆い、園芸植物や野菜の栽培試験を行っていた。

### 2. 原子力規制と再稼働の動き

- (1) 稼働状況：運転中4基（大飯④、高浜④、玄海③④）。定期点検中2基（高浜③、大飯③）。特重施設設置期限による停止2基（川内①②）、仮処分による停止1基（伊方③）。10月には高浜④が特重施設期限にて停止予定。
- (2) 7/29 規制委員会は六ヶ所再処理工場の新規規制基準適合を正式決定。しかし、稼働には、設工認、実際の工事、使用前検査、そもそも核燃サイクルの破綻など多くの問題が残っている。8/12 原燃は目標完工時期を2022年上期に延期。

### 3. その他のトピックス

- (1) 7/30 広島地裁は「黒い雨」裁判の判決にて原告84名の原爆被災を認定、しかし、8/12 広島市と広島県は国の要請により控訴。広島市長は苦渋の決断と述べるも被団協は強く批判。
- (2) 8/11 貿易統計によると、2019年の原発用の核燃料の輸入は1960年以降はじめてほぼゼロになったとのこと。なお、国内の製造工場も3・11以降止まっており原子力業界の停滞を象徴している。
- (3) 北海道の寿都（すっつ）町の片岡町長、高レベル廃棄物（核のごみ）の最終処分地選定の第一段階となる文献調査への応募を検討していると。2年間の調査に最大20億円の交付金が支払われる。片岡町長は第二次の地質調査（最大70億円）にも積極的。道ならびに周囲の町は反対姿勢。
- (4) ISEPによると、2019年度の国内の発電総量に占める自然エネルギーの比率は19%に増加（3・11以前は9.8%）。



<以上>